

令和6年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

目的・場面・状況を明確にした言語活動が設定された指導を行い、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童を育成する。

○「授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている。」と回答する学校の割合（R5:97.5%⇒R6:98.0%） ※英語教育実施状況調査

○「英語でやり取りや発表をするときには、自分の考えや気持ちをなどを伝えています。」と回答する児童の割合（R5:69.4%⇒R6:70.0%） ※広島県児童生徒学習意識等調査

1. 目標に対する現状

① 「CAN-DOリスト形式の学習到達目標」

	R 4	R 5
設定	100%	100%
公表	96.5%	98.6% ↑
把握	95.7%	99.3% ↑

② パフォーマンステストの実施回数（5・6年計）

	R 4	R 5
話す(やり取り)	801回	846回 ↑
話す(発表)	1150回	1242回 ↑

① 言語活動が設定された授業づくり

	R 4	R 5
授業の50%以上	99.3%	97.5% ↓

② 英語でやり取りや発表をするときには、自分の考えや気持ちを伝えています。

（広島県児童生徒学習意識等調査より）

	R 4	R 5
当てはまる	69.6%	69.4% ↓

2. 要因分析

①: 「CAN-DOリスト」が入った振り返りカードを英語専科指導教員に紹介したことで、「CAN-DOリスト」を児童と共有したり、児童の達成状況を教員が把握したりすることに活用した教員が増加したと考えられる。

②: 英語教育研究指定校で実践したパフォーマンステストの取組内容や評価例などを紹介したことで、「話すこと」をパフォーマンステストで評価する学校が増加したと考えられる。

①②: ①と②の結果から、教師側は言語活動が設定された授業づくりを行っているとは回答しているにもかかわらず、児童側は自分の考えや気持ちを伝え合う活動が十分でないと感じている。

教師と児童の間にこのような差が生まれた要因として、1 単位時間の授業の中で言語材料の反復練習の割合が多く、目的・場面・状況などに合った本物のコミュニケーション活動を行う時間が不足していることや、児童にとって必然性のある言語活動を仕組むことが不十分であり、教師主導の授業になっていることがあげられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②

○ 「英語専科指導教員研修」の実施

言語活動の充実に向けた効果的な指導法について英語専科指導教員を対象に、年 3 回研修を実施し、指導力の向上を図る。（主な研修内容）

- ・ 効果的な言語活動が設定された授業計画の作成
- ・ 目的・場面・状況が明確に設定された言語活動と、中間指導について（リフレクションも含む）
- ・ 効果的な言語活動が設定された授業の振り返りと今後の授業改善に向けて

○ 「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」の受講の斡旋・活用

文部科学省の事業を活用し、指導法を学び、授業で活用することで、小学校外国語教育の特性を踏まえた指導力の向上を図る。

○ 「英語教育実践研究校リーダー研修」の実施及び研究成果の普及

研究校ごとに研究領域を設定し、指導主事が授業研究や校内での取組の指導助言を行い、実践研究の成果を普及する。

【一定の英語力を有する新規採用者の採用に係る取組】

教員採用選考試験説明会等において、英語力を有する者を求めている点や加点制度を実施していることを周知する。

校種・職種・教科	基準				加点
	TOEFL (iBT)	TOEIC (L&R)	IELTS	英検	
小学校教諭	80以上	730以上	6.5以上	準1級	20点
	65以上	600以上	5.5以上	—	10点
	55以上	550以上	5.0以上	2級	5点

令和6年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

○「CEFR A1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒」の割合 (R5: 57.3% ⇒ R6: 60.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① 生徒の英語力

CEFR A1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が増加した。
(R4:54.4%⇒R5:57.3%)

② パフォーマンステスト

スピーキングテスト及びライティングテストの両方実施している学校の割合が増加した。
(R4:95.8%⇒R5:99.5%)

③ ALTの参画

「一定の目的を持った授業外での教育活動」にALT等が参画した学校の割合が増加した。
(R4:51.6%⇒R5:68.8%)

未だ改善が必要な点

① 言語活動の割合

授業中、50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合が昨年から減少した。
(R4:88.0%⇒R5:75.0%)

② R5全国学力・学習状況

・教科調査の結果から、言語の働きを理解し、適切に表現することに課題が見られた。
(平均正答率:25.2%/全国29.0%)
・「話すこと」調査の結果から、対話を発展継続させるために、関連する質問をすることに課題が見られた。
(平均正答率:7.7%/全国13.4%)

2. 要因分析

① 生徒の英語力において、リーディング校(研究指定校)での取組の成果を公開研究会等で普及したり、全ての中学校で英検IBA(LR)を受験し、客観的な結果等に基づいて評価したりしたため、数値が改善したと考えられる。

② パフォーマンステストの実施状況において、課題のある学校への訪問を行い、「書くこと」等に係るテストの質的改善に向けて指導助言したことで両方実施している学校の割合が増加したと考えられる。

③ ALTの参画において、研修会を通して、授業内の言語活動におけるTTや授業外での取組の照会することにより、ALTが教育活動に参画した学校の割合が全体的に増加した。

① 学習指導要領の趣旨について研修を継続的に重ねたことで、「言語活動」とはどのような活動を指すのか、学校側の理解が進んだ。このため、一部の学校で誤った認識があったため、割合が減少したものと考えられる。

② 全国学力・学習調査の結果について、場面等における言語の働きに係る指導が不十分であることが要因と考えられる。
また、「話すこと」調査の結果について、内容に関連する質問を行う活動及び指導を行っていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①・②・③ 【学力向上推進事業（英語教育の充実）】

○ 英語教育リーディング校（研究指定校）における「話すこと」及び「書くこと」に関する指導と評価の更なる充実に向けて、引き続き、実践研究を推進し、その成果を全ての中学校に普及する。

令和6年度広島市英語教育リーディング校（研究指定校）

英語教育実践研究校	広島市立大塚中学校
	広島市立早稲田中学校
	広島市立仁保中学校
	広島市立瀬野川中学校

③ 【学力向上推進事業（小・中連携教育研究会）】

○ 中学校に配置される英語指導助手(ALT)を年間複数回、同一校区内のすべての小学校に派遣し、児童が外国人と触れ合う機会を設ける。英語指導助手(ALT)の勤務日は、終日小学校に派遣し、授業以外の休憩時間や給食時間等も全校児童が英語指導助手(ALT)に関わることができるよう、校長会等で周知する。

① 【英語指導助手（ALT）活用研修】

○ 本市教育センターと連携し、言語活動を取り入れた授業づくりへの理解を深めるとともに、英語指導助手（ALT）を効果的に活用した実践的指導力を高めるための研修を実施する。

回	内 容
第1日	・言語活動の理解と英語指導助手(ALT)を活用した授業づくり ・英語指導助手(ALT)との授業計画の作成
第2日	・実践交流 ・全生徒を対象として実施する英検IBAの結果の分析（CEFR A1 レベル相当の力の把握） ・振り返りと改善計画の作成

② 【教員の自主研修で活用できる資料の作成・提示】

○ パフォーマンステスト（定期試験含む）における「話すこと」及び「書くこと」に係る問題の質的改善に向けて、参考となる資料（実践事例等）を作成し、英語担当教員に周知する。
○ 課題のある学校を訪問し、授業視察等を行い、「話すこと」及び「書くこと」に係る言語活動を通じた指導や評価について指導助言を行う。

令和6年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

- 「CEFR A2 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒」の割合 (R5: 67.8% ⇒ R6: 70.0%)
- 「CEFR B1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒」の割合 (R5: 30.2% ⇒ R6: 32.5%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①言語活動の割合

授業における、生徒の英語による言語活動（授業時間の50%以上）の割合が10.9ポイント増の97.1%に達した。

(R4:86.2%⇒R5:97.1%)

②パフォーマンステストの実施状況

スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が19.8ポイント増の85.3%に達した。

(R4:65.5%⇒R5:85.3%)

③生徒の英語力

CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が2.2ポイント増の67.8%に達している。

(A2 R4:65.6%⇒R5:67.8%)

①生徒の英語力

CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は5.4ポイント減の30.2%となっている。

(B1 R4:35.6%⇒R5:30.2%)

②ICT機器の活用

遠隔地の人物と英語で交流する等の活動を実施した学校の割合が14.3%と非常に低い。

2. 要因分析

①言語活動の割合

英語教育研究校における成果発表や英語指導助手（ALT）の活用研修を実施し、言語活動についての理解を深める機会とした。

②パフォーマンステストの実施状況

英語教育研究校における成果発表や英語指導助手（ALT）の活用研修において、英語指導助手（ALT）を活用したパフォーマンステストの実施について周知するとともに、その指導と評価の一体化について指導した。

③生徒の英語力

これまでの英語教育の充実に向けた取組の成果であると考えられる。

①生徒の英語力

生徒間での英語のやり取りが盛んに行われるようになったが、英語に堪能な人に対して英語を使う場が十分に提供されておらず、高いレベルでの発信能力が伸び悩んでいると考えられる。

②ICT機器の活用

1人1台端末の活用は進んできているものの、遠隔地との通信による言語活動の実施には、システムや予算等に課題があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

【継続】

①英語指導助手（ALT）の全校配置

英語指導助手（ALT）を授業外でも活用できるような形で各市立高等学校・中等教育学校へ配置し、授業内外での効果的な活用を引き続き行う。

②英語教育研究校による実践研究

ALTの複数配置、授業外でのALT活用、平和ガイドボランティア、英語多読、海外修学旅行、定期的なアンケートやインタビューテストの実施を引き続き行う。

③eラーニングの活用

広島市立大学との連携による、コンピュータを活用した英語学習システムの提供を引き続き行う。

④留学支援・研修

- ・広島市高校生短期留学プログラム（モントリオール）を実施する。
- ・ALTを活用した授業づくり研修を実施する。

【新規】

①生徒の英語力

より高い発信能力の育成に向けて、昨年度まで中学生のみを対象として実施してきたE-Camp Hiroshimaを、高校生にも対象を拡大し、実施する。

②ICT機器の活用

ICT機器の活用及び英語による発信能力の育成に向けて、オンライン英会話プログラムを英語教育研究校で実施し、他の市立高等学校への普及について検討する。

目標達成状況一覧表

令和6年度様式（様式2）

広島市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	70.0	67.8	70.0		70.0		70.0		70.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	40.0	30.2	32.5		32.5		35.0		35.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100.0	97.1	100.0		100.0		100.0		100.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100.0	85.3	100.0		100.0		100.0		100.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80.0	92.0	92.0		92.0		92.0		92.0	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100.0	70.6	72.5		72.5		75.0		75.0	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	57.3	60		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	75.0	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	99.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100.0		100		100		100	
		公表(%)	100	100.0		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100.0		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60	63.2	60		60		60		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	75.0	100		100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	98.6		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	99.3		100		100		100	